

大学等名	岐阜市立女子短期大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称      ② 教育プログラムの修了要件

③ 修了要件

本プログラムでは、1年次前期に開講する授業科目「データサイエンス概論」2単位を取得することを修了要件とする。

- 必要最低単位数  単位      履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス概論(英語英文学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(国際文化学科)	2	○	○	○					
データサイエンス概論(食物栄養学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(生活デザイン学科)	2		○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス概論(英語英文学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(国際文化学科)	2	○	○	○					
データサイエンス概論(食物栄養学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(生活デザイン学科)	2		○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス概論(英語英文学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(国際文化学科)	2	○	○	○					
データサイエンス概論(食物栄養学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(生活デザイン学科)	2		○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス概論(英語英文学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(国際文化学科)	2	○	○	○					
データサイエンス概論(食物栄養学科)	2		○	○					
データサイエンス概論(生活デザイン学科)	2		○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論(英語英文学科)	2		○	○	○						
データサイエンス概論(国際文化学科)	2	○	○	○	○						
データサイエンス概論(食物栄養学科)	2		○	○	○						
データサイエンス概論(生活デザイン学科)	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 初回講義「①ガイダンス、社会で起きている変化」 講義終盤「⑭データサイエンスとこれからの働き方」「⑮データサイエンスと私たちの未来」にて、社会で起きている変化を知り、データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。
	1-6 講義序盤でデータ・AI活用のための要素技術を学習した後の、 講義中盤「⑥データ活用事例に学ぶ(海外、国内、岐阜)」にて、 データ・AI利活用における最新動向を活用事例として学ぶ。
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 講義序盤「②データサイエンスの重要性・必然性」にて、 社会でどんなデータが集められ、どう活用されているかを知る。
	1-3 講義序盤「③データが変える社会」にて、 様々な領域でデータ・AIが活用され、社会が変革していることを知る。
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 講義序盤「④データ活用のプロセス」にて、 データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る。
	1-5 講義序盤「⑤データ・AIが何に使えるか」にて、 データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。

(4)活用に当たったの 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、デー タ倫理、AI社会原則 等)を考慮し、情報セ キュリティや情報漏洩 等、データを守る上での 留意事項への理解 をする	3-1	講義中盤「⑦AIとは何か?」「⑧AIの技術」にて、 データ・AIを扱う上での留意事項について学ぶ。
	3-2	講義中盤「⑨データ・AIにおける留意事項とセキュリティ」にて、 データを守るうえでの留意事項について学ぶ。
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	講義後半「⑩データの読み方」にて、 統計的手法を学び、データを正しく理解する方法を学ぶ。
	2-2	講義後半「⑪データの説明」にて、 グラフ化等のデータビジュアライゼーションについて学ぶ。
	2-3	講義終盤「⑫データを扱う(1)」「⑬データを扱う(2)」にて、 データの集計、解析方法について学ぶ。

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

人工知能(AI)やデータサイエンスは実社会において必要不可欠なツールとなりつつある。  
 本プログラムを履修することで、社会における情報を正しく利用し、そしてデータ・AIを活用する知識や  
 データを読み解く能力が身に付けられる。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
英語英文学科	65	50	100	2	0	2	2	0	2	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	2	2%						
国際文化学科	87	60	120	43	0	43	40	0	40	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	43	36%									
食物栄養学科	99	60	120	13	0	13	13	0	13	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	13	11%									
生活デザイン学科	117	60	120	25	0	25	24	0	24	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	25	21%									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!									
合計	368	230	460	83	0	83	79	0	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	18%									

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人

② プログラムの授業を教えている教員数  人

③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	18%	令和5年度予定	74%	令和6年度予定	100%
令和7年度予定	100%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	460

具体的な計画

学科改組に伴うカリキュラム改変のため、令和5年以降は、本教育プログラムの申請科目は、必修となるため、学生は必ず履修する。そのため収容定員に対する履修率は向上していく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムでは、令和4年度までは一部科目が選択科目であったが、令和5年度の学科改編に伴うカリキュラム変更にて、申請科目が必修となるため、学生は必ず履修する。そのため収容定員に対する履修率は向上していく。

また、令和5年1月にはデータ駆動科学教育研究センターを設置し、本プログラムを継続的な改善の推進及び支援する全学的な体制が整った。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

必修科目「情報リテラシー」の初回授業において、本学で実施している数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて説明を行い、本プログラムについても学生へ周知する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムでは、令和4年度までは一部科目が選択科目であったが、令和5年度の学科改編に伴う、カリキュラム変更に伴い、すべて科目が必修となるため、学生は必ず履修することになる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムに限らず、本学で採用しているMS-Teamsを利用し、学生は授業時間以外に不明点等を教員に確認することができ、質問はできるだけ速やかに担当教員からの回答を確認できるような体制を構築している。また、学科改組に関連し、令和5年以降はデータ駆動科学教育研究センターに所属する教員を増員する。これにより、本教育プログラム各学科に1名以上の教員が配置されることとなり、学習指導、質問を受け付ける体制が拡充されることとなる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

データ駆動科学教育研究センター運営委員会

(責任者名) 高橋 秀典

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムを構成する科目の履修状況、単位修得状況を収集している。これらのデータを活用することによって、履修状況や単位修得状況から本教育プログラムの修得状況を把握し、授業の計画・実施・評価・改善の仕組みを確立している。
学修成果	データ駆動科学教育研究センター運営委員会において、本教育プログラム科目の成績及び授業アンケートを分析し、授業内容の学生理解度を把握し、本教育プログラム科目の評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムに限らず、学生による授業評価を実施しており、授業評価の結果として図書館にて学内公開している。毎学期、事務局にて分析を行い学内公開されており、学生の内容の理解度を把握している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムに限らず、既履修学生の経験や意見は、授業評価の結果(受講生の自由記述を含む)として図書館にて学内公開し、後輩の学生も閲覧可能な状態にある。また、本プログラムは令和5年以降は必修科目であり、学習の意義については初回授業でガイダンスとして説明している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和5年度の学科改編に伴うカリキュラム変更にて、申請科目が必修となるため、学生は必ず履修する。そのため収容定員に対する履修率は向上していく。



自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和4年度からの実施であり、未だ本プログラムの修了者はいない。</p> <p>本学では、自己点検の一環として毎年1回から3回ほどの外部委員と学内執行部等による運営委員会を実施しており、学科再編や各学科のカリキュラム内容等にかかる意見について聴取している。外部委員からのコメントから、本教育プログラムへの産業界からの期待は大きいことを実感している。 また、今後は設置したデータ駆動科学教育研究センターにおいて、本プログラムの内容・手法についても意見聴取を行う。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること</p>	<p>分野を問わず幅広い関心を育むため、実社会でAIがどのように活用されているか先進的な事例を紹介し、学ぶ楽しさを喚起する工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本教育プログラム申請科目「データサイエンス概論」は、令和5年以降、データ駆動科学教育研究センターに所属の教員が担当予定としており、全学的な数理・データサイエンス・AI教育のノウハウを貯蓄し、同教育分野の発展に寄与していく。また、これまで通り、学生による授業評価等から学生の理解度等を把握、分析し、授業改善につなげていく。また、学科改組に伴うカリキュラム改変に伴い、令和5年以降は、本教育プログラム申請科目「データサイエンス概論」を補足する授業として「情報・統計処理」を各学科において、必修授業とする。「情報・統計処理」は、「データサイエンス概論」で学んだ知識を演習科目とすることで、知識の定着を図り、本教育プログラムの教育水準を向上させる。</p>

科目名	データサイエンス概論 Introduction to Data Science	単位数	2
		必選区分	英文・食栄・生デ選択／国文必修
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>人工知能(AI)やデジタルトランスフォーメーション(DX)、データサイエンスは、我々の生活の中に入りつつあり、今後、必要不可欠なツールになる。今後の社会を生きていくためには、AIやDX、データサイエンスを正しく理解し、使えるようにする必要がある。そこで、本講義では、AIやDX、データサイエンスの概略とデータを扱う上で必要な知識を学ぶ。</p> <p>本講義の到達目標は、現代社会におけるデータサイエンスの役割が説明できること、データ分析に関する基礎的な分析方法を身に着けること、そして、AIがどのような技術であるかを説明できること、である。</p>		
授業概要	<p>最初に、AIやDX、データサイエンスの出現によって起きた社会の変化やその重要性・必然性、国内外の科学技術政策について学ぶ。その後、AIやデータサイエンスのシステム、データ活用事例について学習する。次に、データやAIを取り扱ううえでの留意事項（データの収集方法やバイアスなど）・セキュリティについて学ぶ。ここでは、今後起こり得る社会的な問題についても学習する。続いて、実際のデータを用いて、データの読み方や分析手法について学ぶ。実際にデータを分析することで、学んだ知識の定着を行う。これによって、データリテラシーを身に着ける。最後に、AIやDX、データサイエンスの発展に伴う私たちの社会の変化と自分自身の将来について考えていく。</p> <p>【SDGs : ④、⑨】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス、社会で起きている変化□</li> <li>② データサイエンスの重要性・必然性</li> <li>③ データが変える社会</li> <li>④ データ活用のプロセス</li> <li>⑤ データ・AIが何に使えるか</li> <li>⑥ データ活用事例に学ぶ（海外、国内、岐阜）</li> <li>⑦ AIとは何か？</li> <li>⑧ AIの技術</li> <li>⑨ データ・AIにおける留意事項とセキュリティ</li> <li>⑩ データの読み方</li> <li>⑪ データの説明</li> <li>⑫ データを扱う(1)</li> <li>⑬ データを扱う(2)</li> <li>⑭ データサイエンスとこれからの働き方</li> <li>⑮ データサイエンスと私たちの未来</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。</p> <p>【復習】 学んだ内容について再度プリントをよく読む。</p>		
評価方法	授業内課題 4 5 %、定期試験 5 5 %		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

学修規程別表 (1)英語英文学科

分野	授業科目	単位数	単位配分(開講時期)				卒業要件
			1年		2年		
			前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	現代社会の理解	生活と経済	2				2
		生活と福祉	2		2		
		現代社会と法律	2			2	
		課題創造演習	1		1	1	
	自然・環境の理解	生物学	2			2	2
		岐阜学入門	2	2			
		生活と化学	2		2		
	人間の理解	日本社会の歩み	2		2		2
		心理学	2		2		
		ジェンダー論	2		2		
	開放科目						
	ネットワーク大学岐阜	共同授業					
		単位互換科目					
	健康科学	スポーツ&エクササイズ	1	1			1
		健康とスポーツ	1		1		1
	情報科学	情報処理(基礎)	2	2			2
データサイエンス概論		2	2				
外国語	フランス語Ⅰ	1	1			1	
	フランス語Ⅱ	1		1			
	フランス語Ⅲ	1			1	1	
	フランス語Ⅳ	1			1		
教養演習	教養演習	1	1			1	
専門教育科目	英文講読	イギリス文学講読Ⅰ	1	1			3
		イギリス文学講読Ⅱ	1		1		
		アメリカ文学講読Ⅰ	1	1			
		アメリカ文学講読Ⅱ	1		1		
	英米関係講義	イギリス文学史	2			2	12
		イギリス文化論	2			2	
		英語学概論Ⅰ	2	2			
		英語学概論Ⅱ	2		2		
		英語コミュニケーション論Ⅰ	2			2	
		英語コミュニケーション論Ⅱ	2			2	
		英語圏社会と文化	2			2	
		現代アメリカ事情	2			2	
	英語教育学概論	2			2		
	ゼミナール	英語コミュニケーション研究Ⅰ	2			2	4
		英語コミュニケーション研究Ⅱ	2			2	
		アメリカ文学研究Ⅰ	2			2	
		アメリカ文学研究Ⅱ	2			2	
		イギリス文学研究Ⅰ	2			2	
		イギリス文学研究Ⅱ	2			2	
		英語学研究Ⅰ	2			2	
英語学研究Ⅱ		2			2		
英語習得研究Ⅰ		2			2		
英語習得研究Ⅱ		2			2		
アメリカ社会研究Ⅰ		2			2		
アメリカ社会研究Ⅱ		2			2		

15

48

次頁に続く

分野	授業科目	単位数	単位配分(開講時期)				卒業要件		
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
専門 教育 科目	実用英語	ライティングⅠ	1	1			2	前頁より 続く↓	
		ライティングⅡ	1		1				
		ライティングⅢ	1			1	2		
		ライティングⅣ	1						1
		英文法Ⅰ	1	1			2		
		英文法Ⅱ	1		1				
		オーラル・イングリッシュⅠ	1	1			2		
		オーラル・イングリッシュⅡ	1		1				
		オーラル・イングリッシュⅢ	1			1			
		オーラル・イングリッシュⅣ	1						1
		リーディングⅠ	1	1			2		
		リーディングⅡ	1		1				
		リーディングⅢ	1			1			
		リーディングⅣ	1						1
		エクステンシブ・リーディング	1	1					
		英会話AⅠ	1	1			2		
		英会話AⅡ	1		1				
		英会話BⅠ	1	1					
		英会話BⅡ	1		1				
		英会話AⅢ	1			1	2		
		英会話AⅣ	1						1
		英会話BⅢ	1			1			
		英会話BⅣ	1						1
		海外英語演習	2			2			
		ビジネス・イングリッシュ	1			1			
		英語情報教育演習	1		1				
		アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1					
		アカデミック・イングリッシュⅡ	1		1				
		アカデミック・イングリッシュⅢ	1			1			
		インターネット・イングリッシュ	1				1		
検定英語演習Ⅰ	1	1							
検定英語演習Ⅱ	1		1						
ネットワーク 大学岐阜	共同授業 単位互換科目								
インターンシップ		1	1						

学修規程別表 (2) 国際文化学科

分野	授業科目	単位数	単位配分(開講時期)				卒業要件	備考	
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
教養教育科目	現代社会の理解	生活と経済	2	2			2		
		生活と福祉	2		2				
		現代社会と法律	2			2			
		課題創造演習	1		1	1			
	自然・環境の理解	生物学	2			2	2		
		岐阜学入門	2	2					
		生活と化学	2			2			
	人間の理解	日本社会の歩み	2		2		2		
		心理学	2			2			
		ジェンダー論	2		2				
	開放科目						15		
	ネットワーク	共同授業							
	大学岐阜	単位互換科目							
	健康科学	スポーツ&エクササイズ	1		1			1	
		健康とスポーツ	1	1				1	
情報科学	情報処理(基礎)	2	2			2			
	データサイエンス概論	2	2			2			
外国語	英語Ⅰ	1	1			1			
	英語Ⅱ	1		1		1			
	英語Ⅲ	1			1				
	英語Ⅳ	1				1			
教養演習	教養演習	1	1			1			
専門教育科目	異文化の理解	比較文化論	2			2		2	
		多文化共生論	2	2				2	
		文化人類学	2			2			
		日本文化論	2	2			2		
		民俗学	2				2		
		アジア文化論	2		2				
		中国文化論	1	1					
		韓国文化論	1	1					
		英米文化論	2				2		
		ヨーロッパ文化論	2			2			
		文化交流論	2				2		
		日本文学論	2		2				
		比較文学論	2			2			
	国際関係論	2		2					
	国際協力論	2				2			
	異文化コミュニケーション	2			2	2			
	情報・言語コミュニケーション科目	カレッジ・イングリッシュⅠ	1	1					
		カレッジ・イングリッシュⅡ	1		1				
		カレッジ・イングリッシュⅢ	1			1			
		カレッジ・イングリッシュⅣ	1				1		
		海外言語・文化演習(英語圏)	1						
		海外言語・文化演習(韓国)	1						
		海外言語・文化演習(中国語圏)	1						
		初級中国語Ⅰ	1	1					
		初級中国語Ⅱ	1		1				
		中級中国語Ⅰ	1	(1)		1			
		中級中国語Ⅱ	1		(1)		1		
		応用中国語Ⅰ	1			1			
		応用中国語Ⅱ	1				1		
		初級中国語会話Ⅰ	1	1					
		初級中国語会話Ⅱ	1		1				
		中級中国語会話Ⅰ	1	(1)		1			
		中級中国語会話Ⅱ	1		(1)		1		
韓国語(入門Ⅰ)		1	1						
韓国語(入門Ⅱ)		1		1					
韓国語(会話Ⅰ)		1			1				
韓国語(会話Ⅱ)		1				1			
韓国語(文法・読解Ⅰ)	1		1						
韓国語(文法・読解Ⅱ)	1			1					
情報・統計処理	1		1						
やさしい日本語(作文)	1			1					
日本語表現法Ⅰ	1	1			1				
日本語表現法Ⅱ	1		1						
関連科目	国際経済論	2			2				
	人間関係論	2	2						
	観光論	2			2				
	ホテル論	2		2					
専門演習	専門演習	2			2	2			
卒業研究	卒業研究	2				2	2		
ネットワーク	共同授業								
大学岐阜	単位互換科目								

る。  
・(1)については、条件を満たした者のみ履修できる。

学修規程別表 (3)食物栄養学科

分野	授業科目	単位数	単位配分(開講時期)				卒業要件	栄養士取得要件			備考					
			1年		2年											
			前期	後期	前期	後期										
教養教育科目	現代社会の理解	生活と経済	2	2			2	2								
		生活と福祉	2		2											
		現代社会と法律	2			2										
		課題創造演習	1		1	1										
	自然・環境の理解	生物学	2			2	2	2								
		岐阜学入門	2	2												
		生活と化学	2	2												
	人間の理解	日本社会の歩み	2			2	2	2								
		心理学	2		2											
		ジェンダー論	2		2											
	開放科目						15									
	ネットワーク 大学岐阜	共同授業														
		単位互換科目														
	健康科学	スポーツ&エクササイズ	1		1							1	1			
		健康とスポーツ	1	1								1	1			
情報科学	情報処理(基礎)	2	2			2						2				
	データサイエンス概論	2	2													
外国語	英語Ⅰ	1	1			1						1				
	英語Ⅱ	1		1		1						1				
	英語Ⅲ	1			1											
	英語Ⅳ	1			1	1										
教養演習	教養演習	1	1			1						1				
専門教育科目	社会生活と健康	公衆衛生学	2			2						2	2			
		社会福祉概論	2									2	2			
	人体の構造と機能	解剖学	1		1							1	1			
		生理学Ⅰ	1		1		1	1								
		生理学Ⅱ	2				2	2								
		解剖生理学実験	1			1		1								
		生化学Ⅰ	2		2		2	2								
		生化学Ⅱ	2			2		2								
		生化学実験	1		1			1								
		老年学	2				2	2								
	病態病理学	2				2	2									
	食品と衛生	食品学	2	2			2	2								
		食品学実験	1	1				1								
		食品加工学	2				2	2		*						
		食品加工学実習	1				1	1								
		食品衛生学	2				2	2								
		食品衛生学実験	1				1	1								
		食品微生物学	2		2											
		食品品質管理論	2			2										
	食品流通論	1			1											
	栄養と健康	基礎栄養学	2	2			2	2								
		栄養学実験	1	1				1								
		応用栄養学	2	2			2	2			*					
		応用栄養学実習	1		1			1								
		栄養管理論	1			1		1								
		臨床栄養学Ⅰ	2		2		2	2								
		臨床栄養学Ⅱ	1			1		1								
		臨床栄養学実習Ⅰ	1			1		1								
	臨床栄養学実習Ⅱ	1				1	1									
	栄養の指導	栄養指導論	2	2			2	2								
		栄養指導論実習Ⅰ	1		1			1								
		栄養指導論実習Ⅱ	1				1	1								
		栄養教育論	2			2		2								
公衆栄養学概論		2			2		2									
栄養情報処理実習		1		1			1									
栄養士特論		2		2												
カウンセリング論		2			2											
給食の運営	調理学	2	2			2	2									
	調理学実習	1	1				1									
	給食管理	2	2			2	2									
	給食管理実習Ⅰ	1		1			1									
	給食管理実習Ⅱ	1			1		1			#						
基礎化学	基礎実験化学	2	2							※						
卒業研究	卒業研究	2			2		2									

備考欄に\*を付した科目は、他学科の学生への開放科目であり、他学科の学生がその単位を修得した場合は、教養教育科目の単位として認定される。

※)基礎実験化学は、高校で化学を履修していない場合、必ず履修すること。

#)栄養士免許取得予定者のみ給食管理実習Ⅱを履修することができる。

学修規程別表 (4-1)生活デザイン学科 ファッション専修

分野	授業科目	単位数	単位配分(開講時期)				卒業要件	衣料管理士	備考	他専修単位互換科目	
			1年		2年						
			前期	後期	前期	後期					
教養教育科目	現代社会の理解	生活と経済	2	2			2				
		生活と福祉	2		2						
		現代社会と法律	2		2						
		課題創造演習	1		1	1				演習・集中	
	自然・環境の理解	生物学	2			2	2				
		岐阜学入門	2	2							
		生活と化学	2		2						
	人間の理解	日本社会の歩み	2			2	2				
		心理学	2		2						
		ジェンダー論	2		2						
	ネットワーク大学岐阜	共同授業					15				
	健康科学	単位互換科目									
		スポーツ&エクササイズ	1	1				1		実技	
	情報科学	健康とスポーツ	1		1			1		演習・講義	
情報処理(基礎)		2	2			2					
情報処理(応用)		2		2							
外国語	データサイエンス概論	2	2								
	英語Ⅰ	1	1			1			演習		
	英語Ⅱ	1		1		1			演習		
	英語Ⅲ	1			1				演習		
教養演習	英語Ⅳ	1			1				演習		
	教養演習	1	1			1			演習		
専門教育科目	基礎科目	デザイン概論	2	2		2				*	
		色彩学	2	2				2	2		
		基礎造形	2	2			2		演習		
		デッサン	2	2					演習		
		生活材料学	2	2			2	2			
		ファッションデザイン論	2		2		2	2			
		建築・インテリア概論	2	2							
		インテリアデザイン論	2		2						
		美術・デザイン史	2	2							
		メディアデザイン論	2		2						
	専修科目	ファッションデザイン画	2	2			2	2	演習	○	
		ファッションデザイン演習Ⅰ	2		2		2	2	演習	○	
		ファッションデザイン演習Ⅱ	2			2			演習		
		ファッション造形論	2		2		2	2			
		ファッション造形演習Ⅰ	2	2			2	2	演習	○	
		ファッション造形演習Ⅱ	2		2		2	2	演習		
		ファッション造形演習Ⅲ	2			2			演習		
		ファッション造形演習(和服)	2				2		演習	○	
		パターンメイキング論	2			2	2	2			
		ドレーピング	2		2		2	2			
		材料管理学	2			2	2	2	2	○	
		テキスタイル素材演習	2			2	2	2	演習		
		染色デザイン演習	2			2			演習	○	
		テキスタイル染色演習	2				2	2	演習		
		ファッションビジネス論	2	2			2	2	2	○	
		ファッションマーケティング	2		2		2	2	演習		
		ブランドマーチャライジング	2			2	2	2	演習		
		ファッション販売論	2				2				
	展開科目	服飾文化史	2	2						○	
		ファッション史概論	2		2		2	2			
		消費科学	2				2	2	2		
		課題研究	2		2				演習		
生活環境学		2			2			*			
テキスタイルデザイン		2			2			演習			
地域・環境デザイン論		2			2		2				
生活造形演習		2			2			演習・一部集中			
広告デザイン論		2			2						
卒業研究		4			4	4		演習			
他専修単位互換科目	◎										
インターンシップ	2		②					集中			

備考欄に\*を付した科目は、他学科の学生への開放科目であり、他学科の学生がその単位を修得した場合は、教養教育科目の単位として認定される。

◎: 他専修単位互換科目の取得単位数は履修科目による。科目によっては設備等の都合で受講人数制限を行っている場合があるため、受講希望者は該当科目のシラバスを必ず参照すること。

学修規程別表 (4-2)生活デザイン学科 建築・インテリア専修

分野	授業科目	単位数	単位配分(開講時期)				卒業要件	二級建築士 [実務2年] 必修 26単位 (20単位以上)	二級建築士 [実務1年] 選択4単位以上 [実務0年] 選択14単位以上	一級建築士 [実務4年] 選択14単位 以上	備考	他専修 単位互 換科目	
			1年		2年								
			前期	後期	前期	後期							
教養 教育 科目	現代社会 の理解	生活と経済	2				2						
		生活と福祉	2		2								
		現代社会と法律	2		2								
		課題創造演習	1		1			1					演習・集中
	自然・環境 の理解	生物学	2					2					
		岐阜学入門	2	2									
		生活と化学	2			2							
	人間の 理解	日本社会の歩み	2					2					
		心理学	2			2							
		ジェンダー論	2		2								
	開放科目												
	ネットワーク 大学岐阜	共同授業 単位互換科目											
	健康科学	スポーツ&エクササイズ	1	1				1					実技
		健康とスポーツ	1		1			1					演習・講義
	情報科学	情報処理(基礎)	2	2				2					
情報処理(応用)		2		2									
データサイエンス概論		2	2										
外国語	英語Ⅰ	1	1			1					演習		
	英語Ⅱ	1		1		1					演習		
	英語Ⅲ	1			1						演習		
	英語Ⅳ	1			1						演習		
教養演習	教養演習	1	1			1					演習		
専門 教育 科目	基礎科目	デザイン概論	2	2			2				*		
		色彩学	2	2			2						
		基礎造形	2	2			2					演習	
		デッサン	2	2								演習	
		生活材料学	2	2									
		ファッションデザイン論	2		2								
		建築・インテリア概論	2	2			2	2					
		インテリアデザイン論	2		2		2	2					
		美術・デザイン史	2	2									
	メディアデザイン論	2		2									
	専修科目	建築・インテリア基礎製図	2	2			2	2				演習	○
		建築・インテリア設計演習Ⅰ	2		2		2	2				演習	
		建築・インテリア設計演習Ⅱ	2			2			2	2※①		演習	
		建築・インテリア設計演習Ⅲ	2			2			2	2※①		演習	
		建築・インテリアCAD演習	2		2				2	2※①		演習	○
		建築プレゼンテーション演習	2			2			2	2		演習	
		建築計画論	2	2			2	2					○
		公共施設計画論	2		2		2	2					○
		住生活論	2			2			2	2※②			○
		西洋建築史	2			2			2	2※②			○
		日本建築史	2			2			2	2※②			○
		建築材料学	2	2			2	2					○
		一般構造	2		2		2	2					○
		構造力学	2		2		2	2					○
		構造力学演習	2			2			2	2※③		演習	○
		構造計画	2			2			2	2※③			
		建築環境学	2		2		2	2					○
	建築設備学	2		2		2	2					○	
	施工と生産	2			2			2					
	建築法規	2			2			2					
	測量演習	2				2			2	2		演習	
	インテリアデザイン演習	2			2			2	2			演習	
	課題研究	2		2								演習	
	展開科目	生活環境学	2			2						*	
		テキスタイルデザイン	2			2							演習
		地域・環境デザイン論	2			2			2	2			
生活造形演習		2			2							演習・一部集中	
広告デザイン論		2			2								
卒業研究		4			4	4					演習		
他専修単位互換科目	◎												
インターンシップ		2		②							集中		

備考欄に\*を付した科目は、他学科の学生への開放科目であり、他学科の学生がその単位を修得した場合は、教養教育科目の単位として認定される。

※①の科目のうち2つ、※②の科目のうち1つ、※③の科目は両科目とも必ず取得すること。

◎：他専修単位互換科目の取得単位数は履修科目による。科目によっては設備等の都合で受講人数制限を行っている場合があるため、受講希望者は該当科目のシラバスを必ず参照すること。





進級要件別表 (5) 学科ごとの2年次への進級要件

学科	分野	授業科目	単位数	進級要件	
英語英文学科	英文講読	イギリス文学講読Ⅰ	1	2単位以上 修得すること	
		イギリス文学講読Ⅱ	1		
		アメリカ文学講読Ⅰ	1		
		アメリカ文学講読Ⅱ	1		
	専門教育科目	ライティング	ライティングⅠ	1	6単位以上 修得すること
			ライティングⅡ	1	
			英文法Ⅰ	1	
			英文法Ⅱ	1	
			オーラル・イングリッシュⅠ	1	
		実用英語	オーラル・イングリッシュⅡ	1	
			リーディングⅠ	1	
			リーディングⅡ	1	
			英会話AⅠ	1	
			英会話AⅡ	1	
国際文化学科	教養教育科目	教養演習	1	15単位以上 修得すること	
	異文化の理解	多文化共生論	2		
		日本文化論	2		
		アジア文化論	2		
		中国文化論	1		
		韓国文化論	1		
		日本文学論	2		
		国際関係論	2		
		情報・言語コミュニケーション科目	カレッジ・イングリッシュⅠ		1
			カレッジ・イングリッシュⅡ		1
			初級中国語Ⅰ		1
	初級中国語Ⅱ		1		
	中級中国語Ⅰ		1		
	中級中国語Ⅱ		1		
	初級中国語会話Ⅰ		1		
	初級中国語会話Ⅱ		1		
	中級中国語会話Ⅰ		1		
	中級中国語会話Ⅱ		1		
	韓国語(入門Ⅰ)	1			
	韓国語(入門Ⅱ)	1			
	韓国語(文法・読解Ⅰ)	1			
	情報統計処理	1			
	日本語表現法Ⅰ	1			
	日本語表現法Ⅱ	1			

学科	分野	授業科目	単位数	進級要件	
食物栄養学科	教養教育科目	現代社会の理解	2	8単位以上 修得すること	
		生活と経済	2		
		生活と福祉	2		
		課題創造演習	1		
		自然・環境の理解	2		
		岐阜学入門	2		
		生活と化学	2		
		人間の理解	2		
		ジェンダー論	2		
		健康科学	1		
		スポーツ&エクササイズ	1		
		健康とスポーツ	1		
		情報科学	2		
		情報処理(基礎)	2		
	データサイエンス概論	2			
	外国語	1			
	英語Ⅰ	1			
	英語Ⅱ	1			
	教養演習	1			
	解剖学	1			
	専門教育科目	人体の構造と機能	1	16単位以上 修得すること	
		生理学Ⅰ	1		
		生化学Ⅰ	2		
		生化学実験	1		
食品学		2			
食品学実験		1			
食品微生物学		2			
基礎栄養学		2			
栄養学実験		1			
応用栄養学		2			
栄養と健康	1				
応用栄養学実習	1				
臨床栄養学Ⅰ	2				
栄養の指導	2				
栄養指導論	2				
栄養指導論実習Ⅰ	1				
栄養情報処理実習	1				
栄養士特論	2				
給食の運営	2				
調理学	2				
調理学実習	1				
給食管理	2				
給食管理実習Ⅰ	1				
基礎化学	2				
生活デザイン学科	専門教育科目	デザイン概論	2	23単位以上 修得すること	
		色彩学	2		
		基礎造形	2		
		生活材料学	2		
		ファッションデザイン論	2		
		ファッションデザイン画	2		
		ファッションデザイン演習Ⅰ	2		
		ファッション造形論	2		
		ファッション造形演習Ⅰ	2		
		ファッション造形演習Ⅱ	2		
	ドレーピング	2			
	ファッションビジネス論	2			
	ファッションマーケティング	2			
	ファッション史概論	2			
	建築・インテリア専修	基礎科目	デザイン概論		2
		色彩学	2		
		基礎造形	2		
		建築・インテリア概論	2		
インテリアデザイン論		2			
建築・インテリア基礎製図		2			
建築・インテリア設計演習Ⅰ		2			
建築計画論		2			
専修科目	公共施設設計画論	2			
建築材料学	2				
一般構造	2				
構造力学	2				
建築環境学	2				
建築設備学	2				
生活デザイン学科	専門教育科目	デザイン概論	2	23単位以上 修得すること	
		色彩学	2		
		基礎造形	2		
		デザイン	2		
		美術・デザイン史	2		
		メディアデザイン論	2		
	専修科目	発想トレーニング	2		
	OG演習	2			
	グラフィックデザインⅠ	2			
	グラフィックデザインⅡ	2			
	イラストレーションⅠ	2			
	イラストレーションⅡ	2			
	コミュニケーションデザイン論Ⅰ	2			
	情報デザイン論	2			

## 岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター設置規程

制定 令和4年12月27日

改正 令和5年1月25日

令和5年2月22日

### (趣旨)

第1条 岐阜市立女子短期大学(以下「本学」という。)に岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター(以下「センター」という。)を置く。

2 この規程は、センターに関し、必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 センターは、本学における全学的な数理・データサイエンス・AIの教育開発及び研究並びに教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決する実践的な能力の装着及び地域社会を牽引する人材の育成並びに数理・データサイエンス・AIの教育研究分野の発展に寄与することを目的とする。

### (所掌事務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を実施する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育及び情報に関する教育の推進に関すること
- (2) 数理・データサイエンス・AI教育分野のカリキュラムの計画、運用管理に関すること
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検及び評価に関すること
- (4) 数理・データサイエンス・AI教育に関するリカレント教育の推進に関すること
- (5) データ駆動・AIに関する研究や社会連携の推進に関すること
- (6) 教育の情報化の推進に関すること
- (7) 本学のキャンパスネットワークシステム(G-WING)の維持管理及び改善に関すること
- (8) 情報処理機器利用に関すること
- (9) 情報処理LAB、情報処理自習室の利用に関すること
- (10) その他、センター長が必要と認めた事項に関すること

### (組織)

第4条 センターには、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター教員 3名以内
- (3) センター事務職員 1名
- (4) その他センター客員研究員など学長が必要と認める者

### (センター長、副センター長)

第5条 センター長は、本学の教授のうちから、学長が指名し、教授会の議を経て、学長が任命する。

2 センターには、センター長が指名する副センター長を置くことができる。

(センター教員)

第6条 センター教員は、本学の教員のうちから、教務委員会の議を経て、教務委員長の推薦を受けて、学長が任命する。

(主担当センター教員)

第7条 センター長は、前条で任命されたセンター教員のうちから、専任して主要な計画立案を行うセンター主担当教員を1名指名する。

(職員の任期)

第8条 職員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 職員が欠員となったときは、センター長が補欠職員を指名する。その任期は、前任者の残任期間とする。

(センター客員研究員)

第9条 センター客員研究員は、本学の教職員以外のセンターの研究関連分野に関わる専門家のうちから、センター長の推薦を受けて、教授会の議を経て、学長が委嘱する。

2 センター客員研究員は、第3条各号に掲げる事務に協力するものとする。

(運営委員会)

第10条 センターの円滑な運営を図るため、岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(報告義務)

第11条 センター長は、毎年度の事業計画及び事業実績を教授会に報告し、学長の承認を得なければならない。

(事務処理)

第12条 センターの庶務は、事務局が行う。

(委任)

第13条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、運営委員会で定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、令和5年1月1日から施行する。

2 第3条第7号、8号及び第9号にかかる所掌事務は、令和5年4月1日からの所掌事務とする。

3 この規程施行後最初に任命されるセンター長及びセンター教員の任期の終期は、令和5年3月31日までとする。

附 則

この規程は、令和5年1月25日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

## 岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター運営委員会規程

制定 令和4年12月27日

改正 令和5年1月25日

令和5年2月22日

### (趣旨)

第1条 この規程は、岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター（以下「センター」という。）規程第9条第2項の規定に基づき、岐阜市立女子短期大学データ駆動科学教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

### (審議事項)

第2条 運営委員会は、センターに係る次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) センター規程第3条各号に規定する事項
- (2) センターの設置及び運営管理に係る規程等の制定又は改廃に関する事項
- (3) その他、委員長が必要と認めた事項

### (組織)

第3条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター教員 3名以内
- (3) 教務委員会又は地域連携センター運営委員会から推薦された者 1名
- (4) 事務局総務管理課担当職員 1名
- (5) その他センター長が必要と認めた本学の教職員

### (委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を総理する。
- 3 運営委員会には、委員長が指名する副委員長を置くことができる。
- 4 委員長に事故があるときは、副委員長若しくは副委員長が指名されていない場合は、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

### (委員の任期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員が欠員となったときは、委員長が補欠委員を指名する。その任期は、前任者の残任期間とする。

### (会議)

第6条 運営委員会の会議は、委員長が招集しその議長となる。ただし、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席者委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長の決するところ

による。

- 3 議長が必要と認めるときは、本学教職員の出席を求め、議事事項について説明又は意見を聞くことができる。

(部門)

第7条 運営委員会は、必要に応じて第2条各号に規定する審議事項を実施するために次の部会を置くことができる。

- (1) 企画部門
- (2) 学術部門
- (3) 情報基盤部門

(部門の業務)

第8条 企画部門は、次の各号に掲げる業務を担うものとする。

- (1) センターの活動計画の企画、立案及び調整に関すること
  - (2) データサイエンス教育や情報教育の計画・実施・点検に関すること
  - (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの点検及び評価に関すること
  - (4) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの教育改善及び進化に資する提言に関すること
  - (5) その他企画並びに提言及び評価に関することで、他部門の所掌に属しないもの
- 2 学術部門は、次の各号に掲げる業務を担うものとする。
    - (1) 共同研究及び受託研究の推進に関すること
    - (2) 研究プロジェクトの推進に関すること
  - 3 情報基盤部門は、次の各号に掲げる業務を担うものとする。
    - (1) 教育の情報化の促進に関すること
    - (2) 情報教育の推進に伴う環境整備に関すること
    - (3) 本学のキャンパスネットワークシステムの維持管理及び改善に関すること

(部門長)

第9条 前条に規定する部門に部門長を置くことができる。

- 2 部門長は、運営委員会の委員の教員から委員長が指名するものとする。
- 3 部門長は、部門の業務を総理する。
- 4 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 5 部門長が欠けた場合における後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議結果の報告)

第10条 運営委員会は、審議結果について、センター長に報告するとともに、速やかに総務委員会及び教授会の報告するものとする。

(事業計画等の作成)

第11条 運営委員会は、毎年度、運営委員会の事業計画及び実績書を作成しなければならない。

- 2 委員長は、前項の事業計画等を速やかにセンター長に提出するものとする。

(事務)

第12条 運営委員会に関する事務の庶務は、事務局が行う。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の定めるところによる。

附 則

- 1 この規程は、令和5年1月1日から施行する。
- 2 第2条第1項に掲げるセンター規程第3条第7号、8号及び第9号にかかる審議事項は、令和5年4月1日からの審議事項とする。
- 3 この規程施行後最初に任命される第3条第1項に掲げる委員の任期の終期は、令和5年3月31日までとする。
- 4 情報システム委員会規程（平成13年12月26日）は、令和5年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、令和5年1月25日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。



## 岐阜市立女子短期大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について

本学では、政府の「AI戦略2019」に基づいて公開された「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～」(数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)の学修目標に基づき、構成する授業科目を示した教育プログラムとして実施方針を定めた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」を2022年度より実施しており、2023年度からは全学科で必修科目として展開します。

プログラム対象授業科目	国際コミュニケーション学科	健康栄養学科	デザイン環境学科
データサイエンス概論 ※2023年度以降、必修	1年次前期	1年次前期	1年次前期
関連科目：(情報・統計処理) ※2023年度以降、必修	1年次後期	1年次後期	1年次後期
関連科目：(AIプログラミング基礎) ※2024年度以降、選択	2年次前期	-	-

### 本プログラムの実施体制

データ駆動科学教育研究センターを設置。センターは、本学における全学的な数理・データサイエンス・AIの教育開発及び研究並びに教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決する実践的な能力の装着及び地域社会を牽引する人材の育成並びに数理・データサイエンス・AIの教育研究分野の発展に寄与することを目的としている。

### 本プログラムの自己点検・評価体制について

データ駆動科学教育研究センター運営委員会において、本教育プログラムを構成する科目の履修状況、単位修得状況を収集している。これらのデータを活用することによって、履修状況や単位修得状況から本教育プログラムの修得状況を把握し、授業の計画・実施・評価・改善の仕組みを確立している。